

# 消防屯所再建へ

## 南相馬(福島)の企業が支援申し出

福島県南相馬市の建材メーカー、エーディワールド(平沢潤子社長)は、津波で全壊した山田町大沢の町消防団第10分団(大石秀男分団長)の屯所を、年内完成を目指して建設する。東京電力福島第1原発から半径20キロの警戒区域内にある同社は、原発事故の影響と震災の二重被害を受けているが「同じ被災者として、勇敢に人命救助をした消防団員の役に立ちたい」と支援を願い出た。

### 山田の第10分団



新たに建築する消防屯所について、沼崎喜一町長(中)に説明する高崎正治さん(左)と平沢潤子社長＝山田町役場

## 「同じ被災者」絆強く 年内完成を目指す

平沢社長らが21日、同町役場を訪れ、新しい屯所の30分の1の模型を沼崎喜一町長に披露した。沼崎町長は「素晴らしい」と声を弾ませた。屯所は同町大沢の町ふるさとセンター北側に建て、木造平屋で床面積約36平方メートル。建設費用の一切を同社などが負担する。

同社周辺は原発事故で立ち入り禁止区域となった。津波で自宅が全壊した社員もいる中、工場を移し、市内内の避難所などで支援活動に当たった。平沢社長は8月下旬「命を懸け、人命救助に当たった山田町消防団第10分団員が拠点を失い困っている」という記事を目にした。「自分たちも苦しい状況だが、役に立ちたい」と同町を通じ、大石分団長(59)に連絡。設計を担当した建築家の高崎正治さん(東京都中央区)と一緒に準備を進

めてきた。町消防団は全13分団のうち、5分団の屯所が津波で流され、9人が亡くなった。第10分団も1人が犠牲になり、8割以上の団員が自宅を流された。大石分団長は「消防団は話し合うことが大切なので、拠点がなく困っていた。屯所ができれば、やる気も違ってくる。本当にありがたい」と感謝する。平沢社長は「命を顧みず行動した大石さんらが、いかに素晴らしいかは、震災で苦しんだ立場のわれわれにはよく分かる。屯所が地域コミュニティーの核にもなってくれれば」と願う。